

【全大教九州地区第14回教研交流集会(佐賀大学)8/20,21 報告】 【職場の安全衛生分科会】

分科会には13名の参加者があり、武雄労働基準監督署の江口氏のご講演と、長崎大学病院職員の過労死認定の報告と題して、報告があった。

江口氏のご講演の最初は、全国で転倒事故が最も多いことが挙げられ、転倒は前年比9.7%増加という状況であった。転倒も含め、福岡件の労働災害(死傷者数)は2,479名と前年比+105名となっており、労働災害による危険性が増している状況である。

労働災害を未然に防ぐポイントとして、以下が紹介された。

1. 挨拶、コミュニケーション、声かけにより
 頼関係が築かれ相互注意もしやすい
2. 作業手順を見直す・守ること
3. 危険な箇所を放置しないこと
4. 普段から職場パトロールを行うこと
5. 安全教育の計画的な実施

また、ストレスチェック制度についても説明があり、本人のストレス度合いに注意するとともに、実施者は、集団分析を行い、職場環境の改善に活用することの必要性と、実施する機関を適切に選定することが重要であることが報告された。

長崎大学病院職員の過労死認定については、病院職員の過酷な労働環境に対する組合としての取り組みが紹介され、遺族に対する支援体制と、使用者側との交渉の難しさが報告された。

また、参加者の中からは、医学部の方に組合員

室がないなど、組合員が気軽に相談にいける場の必要性と、特に病院職員はサービス残業が多く発生しているため、労働時間に注視する必要性も報告された。

(文責：富重)

【技術職員分科会】

分科会には9名の参加者があり、全大教技術職員部会からの報告と、単組報告として九工大、佐賀大学からレポートを報告した。

全大教技術職員部会からは、現状と今後の取り組みと、技術職員の昇級・昇格、資格手当実態調査表について説明があった。今後も充実させていくとの報告があった。

単組からの報告として佐賀大学からは、教室系技術職員へ学内アンケートを実施した。年齢・勤続年数・給与・在級年数などを収集してグラフ化した。結果、在級年数が高い人ほど昇格・昇級の割合も高い状況であった。ただし、この状況は、中途採用者といった年齢が高いが在級年数が低い人は今後昇級・昇格出来るのか、組合としても考える必要があるとの報告があった。

また、技術専門員・技術専門職員の選考に関する基準は制定されているが、平成16年時に制定された内容であるため、現状に見合った基準へ見直しが必要とも報告された。

他に、以下の報告もあった。

1. 技術職員分科会に若手の技術職員を出して欲しい。勉強のためにも。
2. 同規模の大学での交渉術を確認する上で、分科会の必要性は高い。

■ □ ■ 組合員随時募集中 ■ □ ■

**** kitunion@mbr.nifty.com ** ←このアドレス、ご存知ですか？**

このアドレスに出されたメールは、執行委員にのみ届きます。
希望しない限り、組合員へメールが公開されることはありません。

